

(1日本史 B プリント 1-4) ( )組( )番 氏名\_\_\_\_\_

## 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり

### 2 農耕社会の成立 a. 弥生文化の成立 b. 弥生人の生活(1)

①前[4]世紀初頭、[2 水稲耕作]を基礎とする[3 弥生]文化成立 (p12)  
→[4 西日本]一帯に急速に拡大→中期には[5 東日本]にも

およそ2700年前と想定される縄文時代の終りころ、朝鮮半島に近い九州北部の佐賀県[6 菜畑]遺跡・福岡県[7 板付]遺跡などで水田による[8 米作り]が開始された。短期間の試行段階をへて、紀元前4世紀初めころには、西日本に[9 水稲耕作]を基礎とする[10 弥生]文化が成立し、やがて東日本にも広まった。こうして日本列島の大部分の地域は、[11 食料採取]の段階から[12 食料生産]の段階へと入った。この[13 紀元前4]世紀ころから[14 3]世紀の時期を[15 弥生]時代とよんでいる。

#### ②特色

ア) 水稲耕作が基礎→農耕用具=[16 石包丁]などの磨製石器、高床倉庫の使用

※石包丁=[17 稲刈り]のための道具

イ) [18 鉄器]器や[19 青銅]器を用いる[20 金属]器文化

※青銅=銅と[21 スズ]の合金、[22 金]色をしている

ウ) [23 弥生]土器=[24 高温]で焼かれる赤焼き→薄手、装飾は[25 簡素]で画一化の傾向  
煮炊き用の甕、貯蔵用の壺、食物を盛る鉢や高杯などに役割分化

エ) [26 朝鮮半島]系の[27 石包丁]などの磨製石器や[28 機織り]技術

オ) 竪穴住居、石器、木器や骨角器の技術など[29 縄文]以来の文化

→これまでの[30 狩猟]や[31 漁労]・採取も人々の生活を支えている!

弥生文化は、[32 水稲耕作]を基礎とし、[33 鉄]や[34 青銅]などを用いた[35 金属器]、木材を伐採し加工するための石斧類、稲の穂摘み用具である[36 石包丁]などの磨製石器、機織り技術などをともなう新しい文化である。また土器も用途別に分化していった赤焼きの[37 弥生土器]に変化した。

こうした水稲耕作や金属器生産などの新しい技術は、中国や[38 朝鮮半島]から伝えられたものである。しかし弥生文化には、土器作りや[39 竪穴]住居など明らかに[40 縄文文化]の伝統を受け継いでいる面もある。

③農耕文化 小区画の水田→[41 灌漑]・排水用水路をそなえた本格的なものに  
湿田→[42 乾田] 直まき→[43 田植え]に

[44 木製]農具の使用……磨製石器で加工→[45 鉄製]工具で加工

→刃先に[46 鉄]を用いた農具の使用に →**乾田の開発がすすむ**

④集落・住居…[47 竪穴]式住居中心

→しだいに[48 高床式]倉庫、貯蔵穴や平地式建物も増加

集落の規模の拡大…5～6戸程度→20～30戸程度の大規模なもの、[49 環濠集落]も出現

⑤あたらしい技術…土器の用途別の分化進む、糸紡ぎや[50 織物]の開始、  
各種の木製品 鉄製工具(斧・かんな・刀子)→石器の消滅へ

[51 食料生産]がはじまるとともに、人びとの生活も大きく変化した。耕作用の農具は刃先まで[52 木]製の鋤や鍬が用いられ、収穫は石包丁による[53 穂首刈り]がおこなわれた。木製農具の製作には、はじめは大陸系の[54 磨製石器]が用いられたが、しだいに斧…刀子などの[55 鉄製工具]が使用されるようになった。[56 鉄]製の刃先を持つ農具の普及とともに、前期の[57 湿田]だけでなく中・後期には[58 乾田]の開発も進められた。地域によっては陸稲やさまざまな[59 雑穀]の栽培がおこなわれ、また狩猟や漁労もさかんで、[60 フタ]の飼育がおこなわれたことも知られている。  
人びとの住居は縄文時代と同じく[61 竪穴]住居が一般的であったが、集落には掘立柱の[62 高床倉庫]や平地式建物もしだいに多くなり、[63 大規模な集落]も各地にあらわれ、まわりに深い濠や土塁をめぐらした[64 環濠]集落も少なくない。

#### 日本人の成立

[65 朝鮮半島]南部からの[66 稲作]技術や[67 金属器]や機織りなどの技術を携えた人と、在来の[68 縄文人]が融合し成立。

→なぜ日本に大量の移民がきたのか=[69 中国]の戦国時代の争乱と統一が背景?

※朝鮮南部との関わり(←長江下流域)

九州北部出土の[70 人骨]が縄文人とは異なる

朝鮮南部と[71 支石墓]、初期の石包丁の形などが共通

縄文人…[72 横幅の広い]顔を持ち、背は[73 低い]。

弥生人…[74 背が高く]、顔は面長で[75 起伏の少ない]。

#### <まとめ>

a. 弥生文化の基礎はく > である。それにかかわってさまざまなく > にかかわる道具がもちいられるようになった。

b. 稲作とそれにかかわるさまざまな文化はく > 南部からやってきた人たちによって伝えられたと考えられる。そのことはこの時期く > から出土した人骨がく > のものと大きく異なることからわかる。

c. 大陸からく > 器やく > 器などが伝えられく > 器時代が始まったといえる。

d. この時期、多く用いられたのはく > 土器といわれる赤焼きで、く > 別に分化が進んだ。

e. 水稲耕作の発展にともなって、集落の規模はく > 戸のといった大規模なものになっていった。